

第7回

恋人坂と恋人岬

「愛の31文字」コンクール 作品募集

昨年に引き続き、おらがまち生涯学習推進特別事業として、熊倉町の名所『恋人坂』『恋人岬』にちなんだ《愛の31文字コンクール》を、下記要項のとおり実施しています。心に浮かんだ『愛』を、自由に、豊かな感性で、31文字に詠んでみませんか？多数のご応募をお待ちしております。

1. 事業名 **恋人坂と恋人岬『愛の31文字コンクール』**
2. 応募期間 **平成23年9月30日締め切り（当日消印有効）**
3. 応募規定 作品・住所・氏名・電話番号を書いて応募する。
4. 応募先 喜多方市熊倉公民館
(市内各公民館・市教育委員会生涯学習課・喜多方建設事務所でも受け付けます)
5. 表彰 最優秀賞1点、優秀賞3点、佳作5点、特別賞若干名。
◎それぞれに賞状と賞品を差し上げます。
(10月30日の公民館まつりの席上で表彰の予定です。)

平成22年度作品

最優秀賞作品：「肩に落つ 抜け毛白きを 払われて 返す微笑み 銀婚の旅」
優秀賞作品：「君待つと 思えば風の 坂道を メロディ奏でる 如く駆けゆく」



6. 問い合わせ
喜多方市熊倉公民館・
『愛の31文字』実行委員会

〒966-0024
喜多方市熊倉町熊倉字壇の前1511
TEL・FAX：0241-22-1801
Eメール：k.kum@city.kitakata.fukushima.jp

●主催／喜多方市熊倉公民館 ●共催／喜多方市教育委員会
●後援／喜多方建設事務所・喜多方市観光協会・福島民報社・福島民友新聞社・おもほん社
熊倉まちづくり委員会・熊倉行政区長会・おぐにの郷

～恋人坂と恋人岬～

♡ 恋人坂

南北に大きな裾を広げる雄国の峰々に抱かれ、ひっそりと佇んでいる「恋人坂」という名の坂がある。「恋人坂」というその名…、いつ誰が名づけたのか知る由もないが、いつしか人々はここを、「恋人坂」と呼ぶようになった。

飯豊連峰と会津盆地を一望する雄国の丘に、人々が集るようになったのは、いつ頃だったろうか。今日もまた、多くの恋人たちが集ってくる。若い二人は愛を語り合い、明日を夢見る。その名の通り、どこからともなく、ほのかに甘い香りが漂い、なぜかロマンを感じ、心を熱くしてくれる『坂』である。

雄国山の西山麓、「芦平」から「辻」に至る道で、喜多方の景勝地の一つに数えられている。特に夜景は格別、単なる光のファンタジーだけでなく、穏やかで静かなその光は、喜多方の風土と人々の生活をも映し出しているかのようでもある。

♡ 恋人岬

獅子沢から雄国山の稜線に向かって、真っすぐ道を進んで行くと、雄国西山麓土地改良事業の記念碑が建つ広場に着く。その周辺にも、いつしか若者が集り、「恋人坂」に呼応し、この地を「恋人岬」と呼んでいる。雲や霧一面に覆われた盆地は、まさに海そのものであり、飯豊に沈む夕陽を浴びた盆地もまた茜色に染められた海である。

今夜もまた、仄かな星の光の下で、眼下の灯火に瞬きながら、彼らは肩を寄せ合っている。大きな空間と時間が介在する中で、語り合っているのは何なのだろうか。瑞々しい感動、魂が震撼するような感覚をもたらす恋するドラマは、自らの生き方を探り、人生を見透かす上で、最高の舞台なのかもしれない。まさに、静寂な世界、神秘的な世界、そして幽玄な世界そのものであり、「永劫への想念」を呼び込んでくれる不思議な『岬』でもある。

昔、万葉時代においては、「恋」の用字として『孤悲』（こひ）が当てられる用例が多く見られました。これは、「切なさ」「嘆き」など、『ひとりかなしむ』という恋の本質を示唆しているのかも知れませんが、恋はまた、憧れや夢をともなって、歡喜や親和、思慕や敬愛などの内面的な色合いをもっています。誰しも、一度は抱いたことのあるその「淡く」「仄か」な『心の響き』をしたためご応募ください。